

Eri no 湖 鮎 の 湖

長浜観光ボランティアガイド協会 創立二十五周年記念座談会

故川村明初代会長の偉大な功績をものぶ

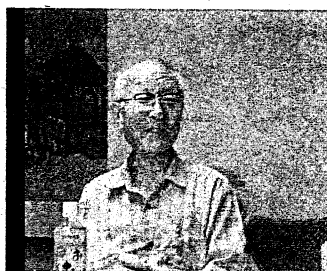


右より富岡氏・井上氏・中島氏・蒲生氏・氏原氏
長浜曳山博物館・会議室

司会・中澤 今年は、長浜観光ボランティアガイド協会が結成されて二五年を迎えます。そこで当会の結成に尽力し、現在もガイドとして活躍中また、歴代の会長をも交えて「二五周年記念座談会」を開催しました。

○誕生（発足までの経過も）から今日までの苦勞話・秘話や会員構成・研修等
中島 昭和五七年頃旅館組合から長浜観光の案内要請があり数人で個人的に出動していた。要請が増えてきてまかないきれなくなり組織作りの必要が出てきた。市役所に相談するとともに長浜史学会のメンバーの有志で会を組織した。最初はパスの道案内と現地説明のパターンが多かった。

長浜城が完成した翌年（昭和五九年）に滋賀県最初のガイド協会として発足した。井上 発足の前年に養成講座が開かれ受講者四〇名、全員が翌年会員となった。この後研修講座が頻繁に開催された。昭和六一年長浜文化塾が開催され、受講生は非常に多かったが入会した人は少なかった。この文化塾は平成元年まで続いた。文化塾とは別に毎月といていいほど研修講座を開いて知識の向上と客への接し方について学んだ。



中島 孝治氏

蒲生 最初の頃は奉仕団体と受け取られていて、除草とかトイレの掃除などの要請もあった。大通寺の清掃は現地研修も兼ねて平成一五年まで続いた。
井上 大通寺はよく研修した。奥の奥まで見せてもらったし、よく話も聞いた。書物も見せてもらった。

○故川村明初代会長を偲んで
中島 旅館の経営者で準備段階から参画し

会の発足に尽力していただいた。この会は川村氏あつての会といっても過言ではない。人の悪口を絶対言わない。困っている人を助けようとの気持ちが強かった。
蒲生 人をけなさない、悪口を言わない。会員を非常に大切にすると人だ。多くのことを学んだ。大垣から中仙道、北国脇往還をずっと一緒に連れて歩いてもらった。観音さまにも造詣深く案内には数珠と般若心経を持ち歩いてい。地元の人の話をよく聞き、それを基によく勉強されていた。献身的に活動を行っていただいた。
富岡 生前、直接指導をしてもらったことがある。おもてなしの心を自ら実践していた。
蒲生 ガイドが生きがい。案内すること客からも教えられる。自分のためにもなる。といつも言っておられた



井上 敦美氏

- 座談者
- 中島孝治氏・現相談役 (第一期生)
 - 井上敦美氏・現会員 (第一期生)
 - 蒲生芳子氏・二代目会長 (第二期生)
 - 富岡秀雄氏・三代目会長 (第三期生)
 - 氏原建士氏・現会長 (第四期生)
 - 司会 中澤芳一 広報部長 (第三期生)

○ガイドの手引書「観光ミニ事典」
発刊と活用について

中島 最初の頃は全員が案内に出る訳ではなかった。人前で話すのは苦手、知識もまだ浅い、などでしり込みする人もいた。三分以内の説明で充分、概略の説明をすれば良い。質問され解らなかつたらテキストを見て応えれば良い」との事やっていた。テキストとか自分が作ったメモなどをまとめたのが「ミニ事典」となっている。今回で三度目の改訂版が発刊となった。

井上 中島さんに付いて行き現場で体験し、話を聞き、勉強していった。長浜に来る人は比較的熱心な方が多い。「ミニ事典」はそのため非常に役立つ。良い勉強材料として活用してきた。



蒲生 芳子 氏

富岡 ガイドに行く時にこれを読み、必要部分をメモにして出掛けた。長浜ガイドの教典みたいなものだ。ただ知識の受け売りではダメ。お客様の気持ちを汲みながらガイドすることが必要だが、これは慣れることが肝心。

○各歴代会長時代の思い出

中島 以前はガイドの溜り場的な場所がありその場に行けば誰かが居て色々な話が出来た。楽しく過ごせる場所となっていた。そこは六・七人で一杯となつた。今は会員同士が気楽に交流

できる場所がないことは、残念なことだ。蒲生 発足時から一六年間川村さんが会長を務めてきた。平成一年からシャトルバスの運行が始まり、会員四六人、休会者もいて出動の割り振りが大変だった。当時は研修会も多く、川村さんの名前が全国的にも知られていた。他協会との交流会も頻繁に行われた。平成九年には第二回全国大会が長浜で開催された。



富岡 秀雄 氏

富岡 会として地元と接触する機会が少なかった。会合の案内があれば制服を着て出来る限り出席しガイド協会をPR、認知してもらおうと心掛けてきた。次第に認知度は高まり、「一豊・千代博覧会」では主要メンバーとして参画できた。平成一八年のお客様は六万一千人、観光ガイド以外のまちづくりの説明なども我々に求められ、観光ガイドだけではなくなりつつある。それだけ行政や商店街の我々に対する認知度も高まっている。

氏原 平成一八年はNHK大河ドラマ「功名が辻」の舞台の多くが湖北地方だったので、ツアーガイドや「一豊・千代博覧会」のガイドで忙しかったが、実に充実した楽しい一年でもあった。

このところガイドの依頼数が減少し、皆さんの腕のふるう場所が少ないのと、四居家の改修工事で会員同士が顔を合わせる機会も少なく、皆さんが寂しい思いをしているのではないかと心配している。



氏原 建士 氏

これからの課題として、会員が楽しく話が出来ると、場を整える必要性を強く感じている。また市の補助金がある時までも約束されるとは限らず、将来に備え今から自立できる運営をめざし一歩踏み出す時期だと痛感している。具体的にはNPO法人化の検討もその一つだ。先輩諸氏が築かれたよきものを後進に伝え、会を存続させることが現在の私達に与えられた使命だと思う。

富岡 客が少なくなった理由は今日の経済的な面や、リピータが多くガイドの必要性がなくなった事もある。以前は旅行会社の旅行でもガイド要請があったが、今はツアー旅行でもガイドの依頼がないところが出てきている。当方のPRもあまり出来ていない。客が多かったせいもあり受身に回っている。客と共学したいとの原点到ることが必要でないか。

○長浜ボランティアガイドの特色や「鯀の湖」の思い出

井上 以前は他のガイド協会に比べ全員がガイドのやり方、知識共に高く、仲間意識があったから、共に学び向上してきた。しかし今は会員が自由に出入りして話が出来ない場所がないため、お互いのコミュニケーションが薄れていきはしないかと心配している。

富岡 組織的な活動との意味を含めて会の理念として「鯀の湖会」のおもいを作ったことは心のよりどころとなり意識向上が図れた。

中島 「鯀の湖」は最初「鯀の子」だった。「外来の客を取り込んでしまえばこちらのもの」の意味合いで川村さんが命名した。その後びわ湖にちなんで「鯀の湖」に変えた。平成九年に発刊し、当時は毎月発行していた。ほとんど自分が原稿を書き編集もしてきた。当初は「ミニ事典」の続きのつもりで発行、自分自身も勉強が出来た。市役所の校正を受け最初は真つ赤に訂正された。

○ボランティアガイドとして気をつけなければならないこと

中島 知識を押し売りしないこと、長話をしないこと、話しかける、呼び掛ける、事が大事。ガイドとしてかまえる必要はない。基本事項を知っておけば良い。全てを知る必要はない。気楽に客と接すれば良い。喋るより慣れる、の気持ちでこれからの活動を行っていけばよいと思う。

○司会・中澤 本日はお暑い中、長時間わたり貴重なお話や、ガイドの在り方や教訓などいただき有り難うございました。(終)

注※「鯀の湖会」は長浜観光ボランティアガイド協会の愛称です。

淡海観光ボランティアガイド連絡協議会
設立一〇周年記念大会に参加

上野 英子

平成二〇年七月九日(水)に、淡海観光ボランティアガイド連絡協議会の設立一〇周年記念大会と第二四回交流研修会が天津市・ピアザ淡海で、県下各地の「観光ボランティアガイド協会」の人々が集まり盛大に開催されました。

当日は、嘉田滋賀県知事が「琵琶湖を中心とした滋賀の環境と観光」と題した記念講演をされました。滋賀県各地域の自然や、歴史・文化等にわたる興味のある内容でした。近年、旅のスタイルは、多様化しており、「観光地の自然や、施設等」を見て楽しむだけでなく、地域に入り込んで「学び体験する観光」にも人気があるとのことでした。

周田を山で囲まれ、「琵琶湖」を擁する滋賀県は美しい自然に恵まれていると共に、数多くの歴史や文化財が存在し、来訪者にとり、大きな観光の魅力となつてきているとのことでした。「観光ボランティアガイドの皆様方は、その置かれてある環境を充分認識して、訪れる観光客に「来てよかった」と、思ってもらえる語り部として、対応していただきたい」とのことでした。

また、淡海観光ボランティアガイド連絡協議会の初代会長であった、故川村明さんのエピソードも紹介されました。川村さんはかつて旅館を経営されておられ、お客さんを迎えられるのに、常に「おもてなしの心」をもって人との触れ合いを大切にされていたとのこと。その川村さんが長浜観光ボランティアガイド協会、滋賀県に淡海観光ボランティアガイド連絡協議会を設立されたことも話されました。このように人との触れ合いを大切にされた、川村

さんが創られた長浜観光ボランティアガイド協会の一員として、私もその意志を引き継ぎ、これからも来訪者におもてなしの心を持って対応していきたいと思っております。



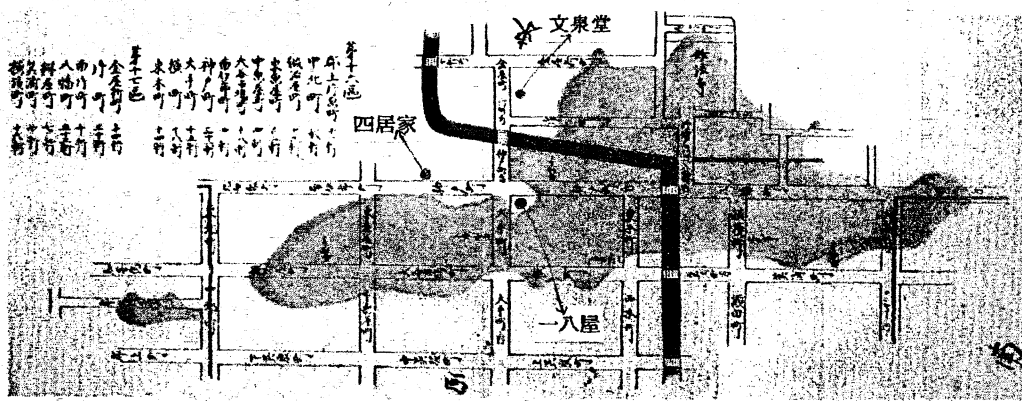
大津市・石山寺(源氏物語千年紀会場)
大会前現地研修

明治の長浜大火
四居家は焼け残った

中島 孝治

明治五年一月一日夜半の二時頃に、郡上片原町から出火して翌二日の昼一二時までの間、大手町、八幡町、紺屋町へかけて焼失した。この火災によつて八ヶ寺と民家二九五戸を焼失した。絵図の黒い部分は焼失した民家、白いところは焼失を免れた民家。焼失家屋が隣接する中で●を付けた家は幸いにも焼け残った家である。焼け残った中には、一八屋さん、玉八さ

ん、四居家、文泉堂さんがある。当時の人々は「長浜大火」という言葉を残している。その後焼け残った家は建て替えられたが、四居家は江戸時代のまま現在に受け継がれているので、江戸時代の建築様式が見られる貴重な遺産である。



琵琶湖一斉清掃に参加

鈴木 健治

滋賀県が定めている「びわ湖の日」(七月一日)には、例年「びわ湖一斉清掃」が開催されます。これは、「琵琶湖の恵みに感謝し、地域の環境の保全と美化の推進など、環境を守り育てる意識の高揚を図るための実践活動」として長浜市が主催するもので、今年も各種団体が参加し、当協会からも二四人参加しました。(市全体で二四〇〇人) 当日八時に、豊公園自由広場に集合し、割り当てられた区域(長浜城(長浜港)の散乱しているゴミ、漂着しているゴミを「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」に分別し回収しました。大勢の力は凄くもので二時間間の作業でしたが、みるみるうちに綺麗になりました。美しくなった湖岸同様、私の心も洗われたような気分になりました。湖岸に住まいしている私にとつて、朝な夕な眺めに心を癒してくれる琵琶湖、湖岸ウォーキングを楽しくむなど琵琶湖は貴重な財産です。これからも、このような奉仕作業には進んで参加したいと思っております。



びわ湖岸清掃

皆さん、長浜市にある風景が日本百選に選ばれていることを「存じ」ですか。豊公園が「日本のさくら名所百選」に選ばれています。これ以外にも二つあります。……。「日本の秘境百選」に竹生島が、また「夕陽百選」に琵琶湖湖岸道路から豊公園が選ばれています。いろいろの百選があり、次に記しました。百選の次に()内の数は、滋賀県内の指定された数です。

- ・「日本のさくら名所百選」(2)・「日本の秘境百選」(2)・「夕陽百選」(2)・「日本の地質百選」(1)・「日本百名城」(4)・「夜景百選」(1)・「水の郷百選」(3)・「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」(2)・「ふるさといきもの里百選」(4)・「公共建築百選」(2)・「日本百名橋」(2)・「日本の百名峠」(2)・「農村景観百選」(2)・「新日本名木百選」(2)・「日本の都市公園百選」(2)・「日本百名山」(1)・「森の巨人たち百選」(0)・「日本の道百選」(2)・「日本の紅葉百選」(2)・「日本の白砂青松百選」(2)・「日本の自然百選」(2)・「日本の棚田百選」(1)・「森林浴の森百選」(2)・「日本の渚百選」(1)・「遊歩百選」(3)・「日本の滝百選」(1)・「かおり風景百選」(2)・「ふるさとおにぎり百選」(2)・「ダム湖百選」(1)・「人と自然が織りなす日本の風景百選」(2)・「快水浴場百選」(1)・「水源の森百選」(2)・「日本の音風景百選」(2)・「日本百名湯」(0)・「疎水百選」(4)・「名水百選」(2)・「日本の歌百選」

これ以外にもあるかも知れません。

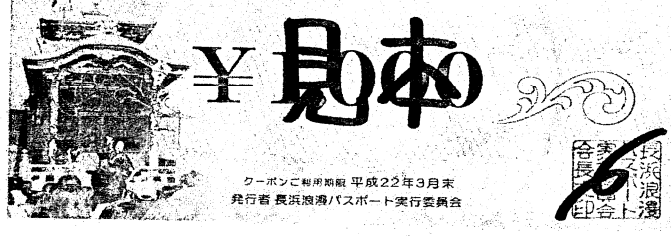
まちカピスポット ⑫

長浜での団体観光ツアー客食事
長浜ランチクーポンで好評

長浜のまち中では、団体で食事を提供できる店が、一部に限られているため、滞在時間が午前か午後の半日単位になることが多かった。このたび長浜浪漫パスポート実行委員会(市観光振興課内)では団体ツアーでも個人や仲間同士で食事が出来る「長浜ランチクーポン」を発売し観光旅行者者に対し広く働きかけておられます。

このクーポン券の利用は、旅行者のツアー客に限られます。種類は一〇〇〇円券・一五〇〇円券・二〇〇〇円券の三種類で、利用できる店は、市内で指定の二九店舗(平成二〇年八月現在)です。旅行者者からお客様にクーポン券およびランチクーポンが渡されます。

長浜ランチクーポン



各店毎に額面金額で注文出来る食事メニューが表記されています。額面より高いものも注文できますが、その差額は利用した店で支払います。ただし、額面より食事が安価なものをお釣り出ません。

ナラ(楷)枯れ被害について

施山昌 一郎

最近山歩きをするコナラ、クヌギ、カシワなどの大きい広葉樹の葉全体が枯れているのが目につく。全国的には、北陸と近畿に被害が集中していると云われている。この原因については湖北地域振興局の森林担当者にお問い合わせところ、「カシノナガキイムシ」という体長4mm位の昆虫が幹の中へ喰入り、その媒介によって孔道に「ラフエレアクエルキボラ」という糸状菌(カビ)が繁殖して樹木の細胞を変質させて樹液の流動を止めて枯らして行くことがわかった。

この被害を無くするには、被害木を伐採して焼却したり、薬液を幹に注入したり、幹に虫が入らないようファイルムや塗布剤で被覆したりする方法があるが、現在林業の不振から森林の手入れがされず被害木は放置され、いまだこの対策は殆ど行われていない。ただ、山歩きをされる場合、こうした被害木は幹や枝がもろくなつており、不意に折れて大きな枝のまま落下してくるの被害木を発見したら速やかにその場を離れるようにしてほしい。

観光ガイドの一員として

清水 進

「私は観光ガイドの一員である」といつても、昨年なつたばかりでは、とても胸を張って見える状況ではありません。でも長年、そう数年前からの目標がやっと実現した喜びに浸っている状態です。私がガイドを目指した理由は、一言に言って一人との触れ合いの中で

喜びを感じたい」という思いからです。私は長い勤務生活の中で殆どの期間を機械(電算機)に携わってききました。だからといって人が恋しくなつたのではありません。逆に人との対話が一番大事だと身に染みて感じてきたからです。「機械は人が使うもので、機械に使われるものではない」ということを判ってもらうには対話しかありませんでした。

加えて私は元々歴史が好きだったやうで、平成元年に長浜城歴史博物館友の会に入会してからは、広く浅く、参加することに意義があるをモットーに出来る限り顔を出すやうにしてみました。おかげで市民学芸員にもなつてしまいました。といつても、やはりガイドは経験が一番大事だと思います。はやく胸を張って「ガイドの一員です」と言えるやう、頑張りたいと思います。

※ 編集後記 ※

当会へのガイド依頼が六月以降激減しています。会員の皆様のガイド割り当ても満足に出来ません。観光客の数は、街を見ている限りあまり減っていないのだが……。これは私たちの力ではどうしようもないとの虚脱感でいっぱい。しかし攻めの方策として、当会を広く知ってもらうため、PR用チラシを発行し、駅観光案内所や観光事業者等に配布したいと思います。お客様の目を引くデザインについてお知恵を拝借したいので、どんどん広報部あてご提案下さい。